第１表の２　　学校名　三鷹市立東台小学校（くすの木学級）

２　学校、学級の教育目標

（１）　学校の教育目標

○　よく考える子ども

（汎用性のある知識・技能の習得　思考力・判断力・表現力　学びに向かう力等の知力の育成）

○　健康な子ども

（主体性、自己肯定感、心身の健康を保持増進する力等の体力の育成）

◎　思いやりのある子ども

（規範意識、相互理解力、親切心、礼儀、勤労、かかわりをもって行動する力等の徳力の育成）

これらの目標を達成するため、「問題発見・解決能力」や「自己調整力」を育成する。また、自分の考えや気持ちを適切に相手に伝えるための「言語能力」、課題解決に必要な情報を獲得し、適切に活用するための「情報活用能力」の育成も目指す。また、「規範意識」」や「思いやりの心」を育むとともに、「自己肯定感」「自己有用感」を高めていく。

（２）教育支援学級の教育目標

○　自ら学ぶ子ども（汎用性のある知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力の育成）
前向きに自ら学ぶ意欲やめあてをもち、自ら学ぶ技能や自分の意思を伝えられる表現力を身に付けた子どもを育てる。

○　元気な子ども（メタ認知力、主体性、自己肯定感、心身の健康を保持増進する力等の育成）
進んで体を動かしたり規則正しい生活を送ったりして、自らの体力や健康・安全に関心をもつ子どもを育てる。

◎　友達と仲よくする子ども（規範意識、相互理解力、親切心、礼儀、勤労、かかわりをもって行動する力等の徳力の育成）
自己の理解を深め、自分からかかわりながら、友達と共に活動したり、思いやりをもって行動したりできる子どもを育てる。

（３）学校、学級の教育目標を達成するための基本方針

コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を構成する小学校として、その理念と使命を受け止め、鷹南学園としての取組を推進する。地域人財との関わりの中で、学園の学校を核としたスクール・コミュニティを創造する。また、児童・保護者が安心して過ごせる学校づくりを第一に考え、多様な学びの特性に応じた環境整備を行いながら教育課程を編成する。

ア　「よく考える子」の育成

（ア）様々な教科の学習や児童の関わりの中で、「問題発見・解決能力」を発揮できるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、自ら課題を見付け学び、考え、解決できるようにする。どの児童にも、その力が発揮できるよう、多くの場面を設定するにする。また、デジタル学習基盤（学習用タブレット端末、校内学習サイト、ＡＩドリル等）を活用するなど、授業改善に取り組み、どの児童にも、児童・生徒一人ひとりの可能性を最大限にその力が発揮できるよう、多くの場面を設定する。学習の見通しをもてる構造化や視覚的支援を取り入れ、理解の仕方に応じて参加しやすい授業づくりを進める。

（イ）自分の力のよさを最大限に発揮し、自らよりよい行動ができるようになるための学習も含めた生活全般に関わる「自己調整力」を育成する。そのために、児童が自ら学習目標を設定して学び、振り返って次に向けた計画を立てる力を育み、達成感を得るプロセス評価も大切にしていく。また、デジタル学習基盤を最大限活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実現するとともに、体験的な活動も含む「教科横断的な学習」を「鷹南学園版小中一貫カリキュラム」に基づきマネジメントする。学習手順の明確化や段階的な課題設定により、多様な児童が自分のペースで取り組めるようにする。

（ウ）「言語能力」の育成に向けては、学習だけでなく、全ての教育活動を通して、児童が自分の考えを表現する場面を意図的に設け、育成を目指す。また、「情報活用能力」は、デジタル・シティズン

シップ教育の考え方の下、情報モラルのルールの徹底や、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したりできるよう、学習用タブレット端末、学校図書館等を目的に応じて活用し、高める。

（エ）中原小学校・第五中学校の教員と学園研究を通して授業を参観し合うことで、授業改善に取り組み、持続可能な学園研究を実施する。その中でも、合理的配慮やユニバーサルデザインの視点を共有し、授業改善に生かす。

（オ）個別最適な学びや協働的な学びを、自分なりの表現の幅や方法で ICT と組み合わせたり、一人ひとりの実態や困り感の手助けとなる部分で組み合わせたりする等、効果的に働くよう授業改善に取り組み、児童・生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、主体的・対話的で深い学びを目指す。

（カ）ドリルタイムやみたか地域未来塾などの補充的な取組や学びのコーディネーター（乗り入れ授業）などの発展的な取組を有効化できるように学園の教職員の連携を図る。また、支援の一層の充実を図るため、スクールサポーターによる協働体制を深め、学習のつまずきに応じた個別支援や補充学習を計画的に行う。

イ　「健康な子ども」の育成

（ア）小学校体力テストの結果を保護者と共有し、地域人財と連携しながら、体力向上を図る。体力調査の結果を踏まえ、課題である「握力」「持久力」「柔軟性」に対する取組を重点的に行う。体育部を中心に具体策を検討し、授業改善や体育朝会の充実を図るとともに、保護者、地域も児童の体力向上について、共に考える機会を継続して設ける。体力差や特性に応じた運動量の調整や安全な活動設定を行う。

（イ）生活指導部を中心とした、校内委員会の強化、生活指導夕会の充実、通常学級と教育支援学級（知的固定）との交流・連携を図ることによって、児童一人ひとりに応じた丁寧な支援・指導を行い、教育支援の充実を図る。行動の見通し、提示や関わり方の工夫により、安心して生活できる環境を整える。

（ウ）「学校２０２０レガシー」として、長縄や短縄、持久走の取組を推進したり、地域人財と連携した体験教室など、体を動かす楽しさを味わわせたりすることで、生涯スポーツの基礎となる運動する心地よさを体感させ、生涯に渡って運動に親しむ資質・能力を育成する。また、体育の授業等においても、活動の難易度や役割を調整し、児童が成功体験を得られるようにする。

（エ）不安や悩みに対処する力を身に付けるとともに、自分が困ったときに助けを求められるようにし、自ら心の健康を保ち、安定した生活を送ることができるようにする。気持ちを表現しやすい支援や相談しやすい体制を整える。

（オ）児童・生徒が「食」に対して関心をもち、自らの健康と食とのつながりを理解しながら感謝して食べることができるよう、食育の充実を図る。視覚的教材や体験的活動を取り入れ、理解しやすい食育を進める。

ウ　「思いやりのある子ども」の育成

（ア）小・中一貫生活指導やＳＮＳ東台ルールなどの具体的な取組の充実を図り、自律心、自制心を育成する。行動の見通しをもてる支援や、理解しやすいルール提示を行う。

（イ）幼保小の連携や縦割り班活動など、多様な関わりの中で、児童それぞれが成長の機会となるよう、交流活動における目的を明確にし、年間計画の評価・改善を行う。児童が互いに理解し合い、主体的に考え、思いやりをもって行動できるように活動を充実させる。

（ウ）「特別の教科　道徳」の授業の充実を図るとともに、道徳教育推進教師のリーダーシップのもと、保護者・地域と連携して、豊かな心を醸成していく。「三鷹平和の日」の制定に伴う「平和教育月間」をとおして平和教育を行い、児童一人ひとりに恒久的な平和を追求する意識を醸成する。具体的な場面設定や多様な表現方法を取り入れ、理解しやすい道徳学習を進める。

エ　地域との共有及び連携

（ア）学校評価アンケート等から課題をとらえ、コミュニティ・スクール委員会、地域学校協働本部と連携を強化し、児童や学校を支える保護者や地域、関係団体等へ学校教育目標、経営方針の理念、取組の基本方針の理解啓発を図り、共有することで、教育活動の質を向上させる。また、多様な児童の学びを支える視点を地域と共有し、協働体制を強める。

（4）　コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校としての教育支援学級の重点

ア　学校の教育目標と学園の教育目標の関連

目指す学校像を「みがく（自主・自立・自律）かかわる（共生・協働）未来をひらく（創造）」とし、学園の教育目標である「地域に根ざし、夢と希望をもち、ともに学び、未来を切り拓く」とも関連させながら、「自己調整力」等の主体的に学校生活が送れるようにするための資質・能力を育成する。児童一人ひとりや学級の状況に応じて、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図りながら、学園の教育目標を実現する。学習や生活の特性に応じた支援を行い、誰もが主体的に学校生活に参加できるようにする。

イ　組織的な授業改善による学力の向上

（ア）「鷹南版小・中一貫カリキュラム」を有効活用した９年間の系統性をもった学習指導を通じて、鷹南学園の児童・生徒に育むことを目指した「自己調整力」の育成をめざす。その資質・能力を育成するために、学園研究を通して、小・中の教員が日常の授業を創造し、評価、改善点について学び合うなど、学園の教員の連携を深める。学習のユニバーサルデザインを共有し、授業改善に生かす。

（イ）全学年でカリキュラム・マネジメントの視点から、「鷹南版小・中一貫カリキュラム」等、意図的、系統的な指導の充実を図る。学習内容の段階化や見通し提示を工夫し、理解しやすい学習を進める。

（ウ）日々の学習状況を自身でも振り返りながら、デジタル学習基盤を有効活用した学びを推進する。また、授業改善推進プラン、スクールサポーターやみたか地域未来塾の活用、小・中相互乗り入れ授業、家庭と連携した「鷹南スタンダード（学習のスタンダード）」の活用、読書習慣の定着など、地域人財と連携した個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。学習のつまずきに応じた支援や補充学習を計画的に行う。

ウ　組織的な生活指導による教育支援の充実

（ア）保護者会や学校便り・ホームページ等を活用して、小・中一貫生活指導の内容を示した「鷹南スタンダード（生活のスタンダード）」を浸透させ、各家庭の協力を得る。また、鷹南学園の小学校・中学校でも一貫して指導する。生活場面での見通し提示や行動の段階化を行い、児童が安心して生活できるようにする。

（イ）校内委員会で、知的固定学級の教員やスクールカウンセラー等と連携しながら、いじめや不登校、特別な支援が必要な児童・保護者へ丁寧な対応をする。

エ　組織的な児童一人ひとりの体力の向上

（ア）東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果や「すこやかタイム」の取組を、家庭との連携を深めながら行い、運動習慣や生活習慣を向上させる。

（イ）児童が体育科の見方・考え方を働かせた深い学びが展開できるようにするとともに、体力調査の結果を考察・分析し、体育の授業と連動させた体育的活動の実践により生涯スポーツの資質・能力の基礎を育成する。

（ウ）体育の授業改善を図り、個別最適な学びや協働的な学びの充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現する活動を通して、体を動かすことの楽しさや心地よさを味わえるようにする。

（エ）「学校２０２０レガシー」の活動を生かし、様々な運動やスポーツへの多様な関わりをもち、生涯にわたって健康を保持増進し，豊かなスポーツライフを実現するなど、自己の健康体力を向上させる。

（オ）児童の興味や得意を生かした活動設定や、介助員・地域人財との連携により、安心して取り組める機会を広げる。

オ　カリキュラム・マネジメントによる徳力の向上

（ア）道徳や特別活動、他の教科等のカリキュラム・マネジメントを進めることにより、全教育活動において、一人ひとりのよさを互いに認め、寄り添う気持ちや協力する心を涵養する。理解の仕方に応じた教材提示や視覚的支援を取り入れ、全ての児童が学びに参加しやすい環境を整える。

（イ）「考え、議論する道徳の学習」を展開できるように授業改善し、多角的、多面的にとらえ、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する。

（ウ）小学校６年生における学園合同自然教室の実施に向け、１年生から段階的な小・小交流を教科横断的な視点と柔軟な発想で計画・実施する。見通しのもてる活動構成や視覚的支援を取り入れ、誰もが参加しやすい授業をつくる。

（エ）学園内の小・小交流や小・中交流、地域団体との交流授業や学校農園での生産活動、地域社会との関わりの中で、人権尊重、いじめ問題、情報モラル等の今日的な教育課題にも対応できる力を育成する。